

2026年5月期 第1四半期 決算補足説明資料

2025年10月



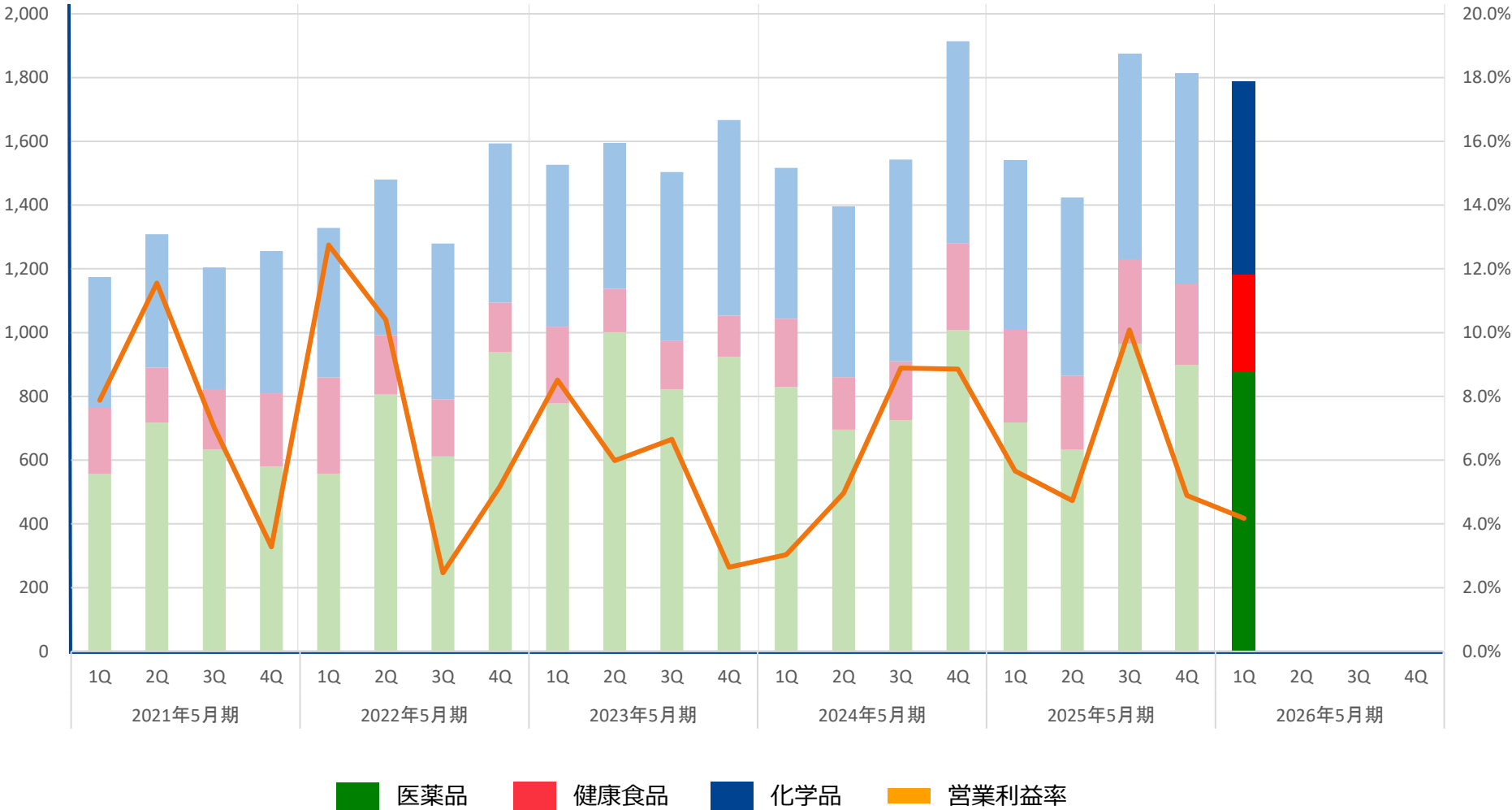
- 売上高は増加。期初の想定を上回る水準で推移
- 売上原価率は上昇したものの、売上増により売上総利益が増加
- 販売費及び一般管理費は増加。期初の想定通りの水準で推移

(百万円)

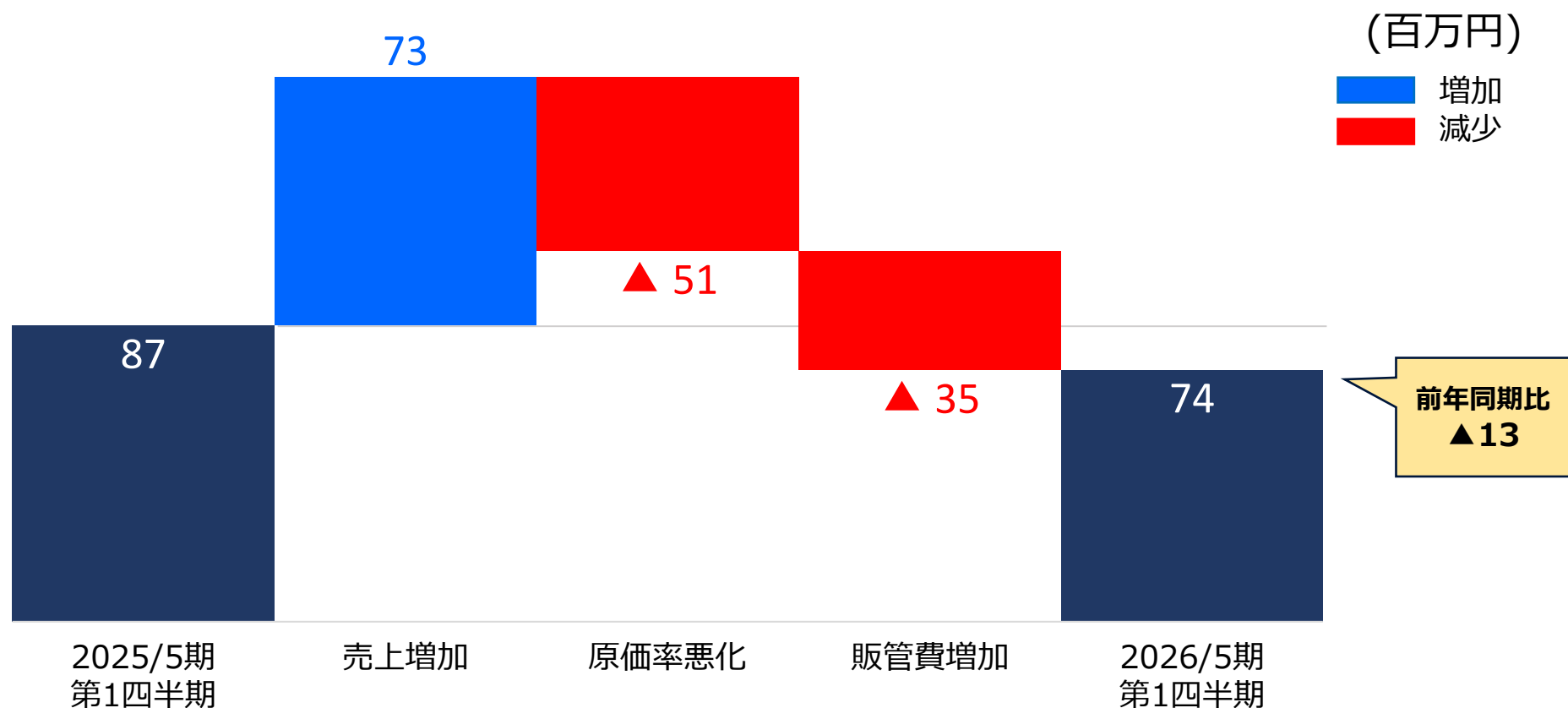
	2025/5期 第1四半期		2026/5期 第1四半期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	1,541	100.0%	1,787	100.0%	+246	+16.0%
売上原価	1,073	69.6%	1,296	72.5%	+223	+20.8%
売上総利益	468	30.4%	490	27.5%	+22	+4.9%
販売費及び 一般管理費	380	24.7%	416	23.3%	+35	+9.3%
営業利益	87	5.7%	74	4.2%	△13	△14.4%
経常利益	97	6.3%	72	4.1%	△25	△25.1%
当期純利益	69	4.5%	57	3.2%	△12	△16.8%

売上(百万円)

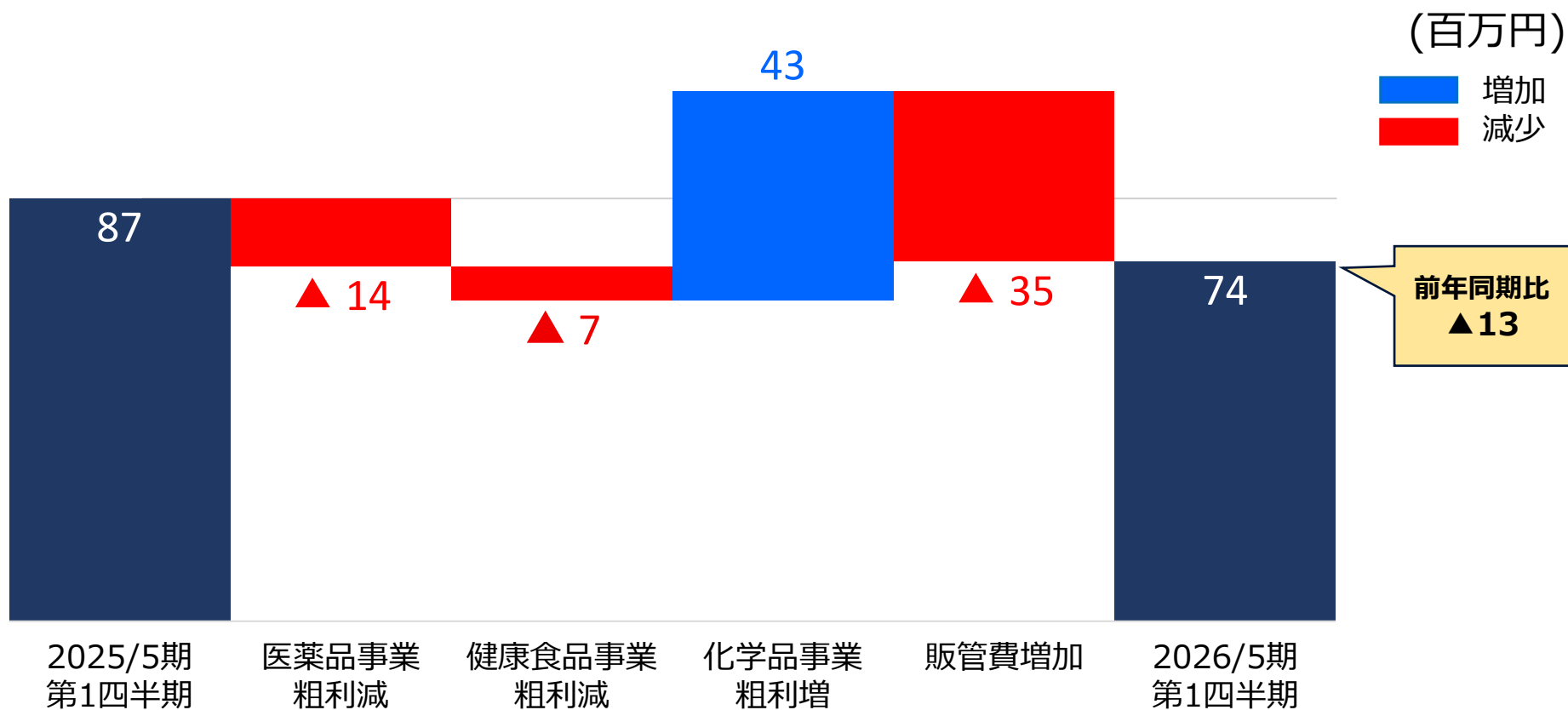
営業利益率



- 3事業部ともに売上増加
- 医薬品の売上品目構成の変化や健康食品事業の製造費用増加により原価率悪化
- 販売費及び一般管理費は、IT機器の入れ替えや人材関連費用により増加



- 医薬品事業は、売上増加も原価率悪化により売上総利益減少
- 健康食品事業は、売上増加も原価率悪化により売上総利益減少
- 化学品事業は、売上増加および原価率改善により売上総利益増加



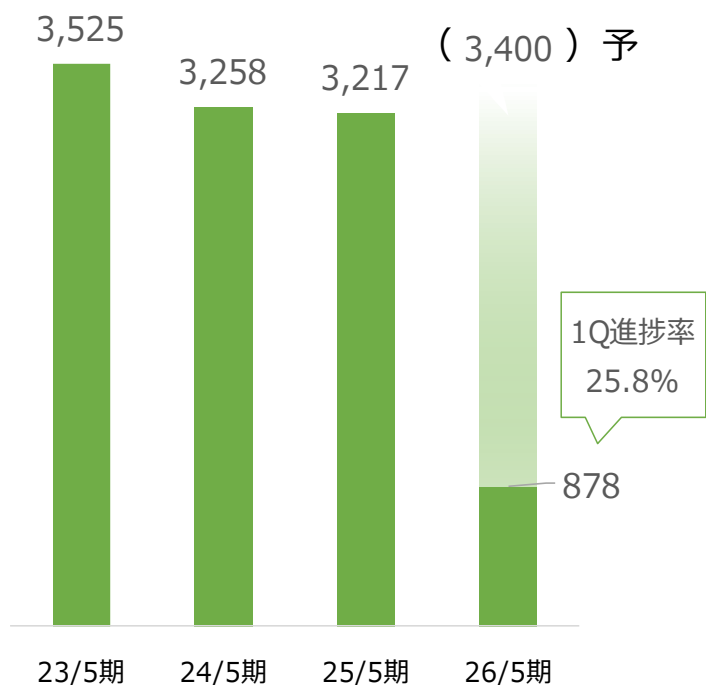
売上高
878百万円

(前年同期比)
(122.0%)

営業利益
87百万円

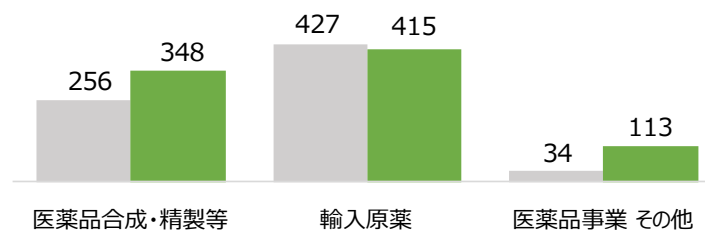
(前年同期比)
(80.8%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



- 2年前に立ち上げた大型製品が計画通りに伸長したこと等により、自社合成・精製品の売上が増加
- アイトープの大口案件の納品も売上増加に寄与
- 自社製造品と輸入原薬の売上品目構成の変化により、原価率が上昇
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



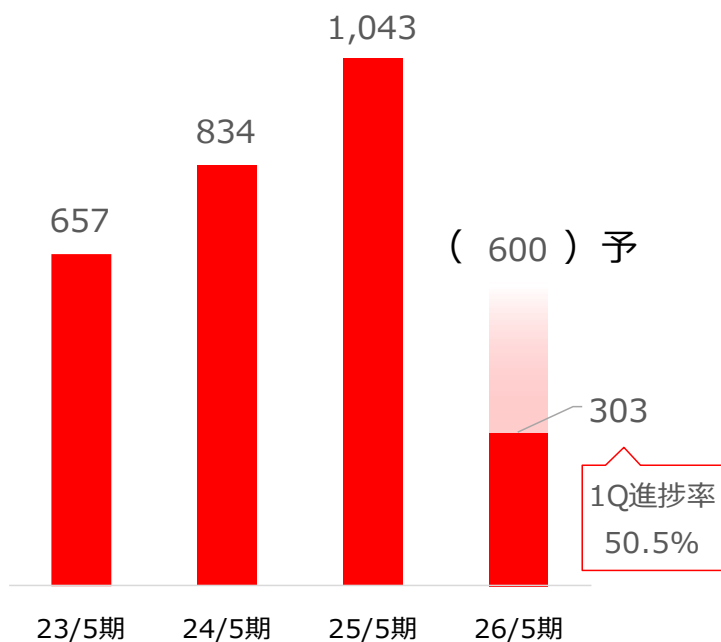
売上高
303百万円

(前年同期比)
(104.3%)

営業損失
▲ 21百万円

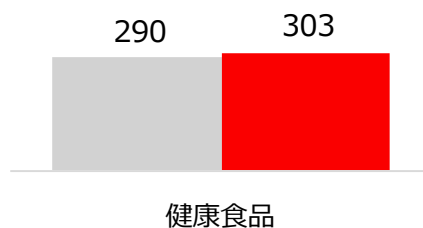
(前年同期実績)
(0百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



- 2025年6月13日に発表した事業撤退による売上減少を見込んでいたが、想定を上回る受注状況
- 工場稼働率は改善したものの、外注加工費の増加等の影響で原価率が悪化
- 製造移管の検討費用等により、販売費及び一般管理費が増加
- 顧客の要望に沿えるよう製造スケジュールを調整するとともに、製造移管を進める

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



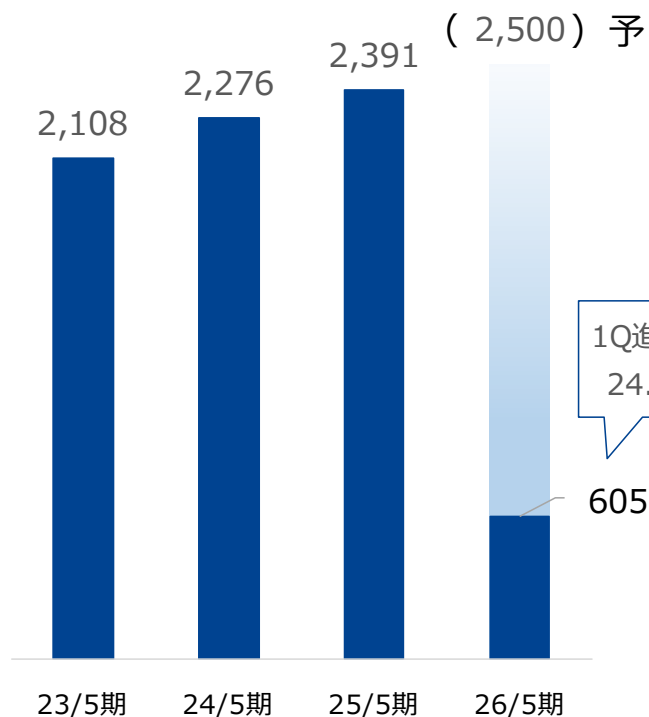
売上高
605百万円

(前年同期比)
(114.1%)

営業利益
8百万円

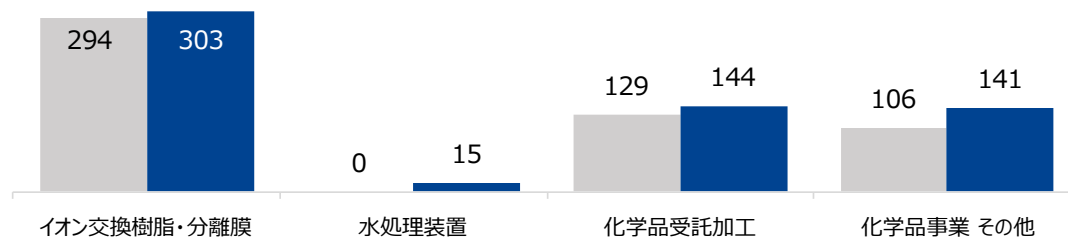
(前年同期実績)
(▲ 21百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



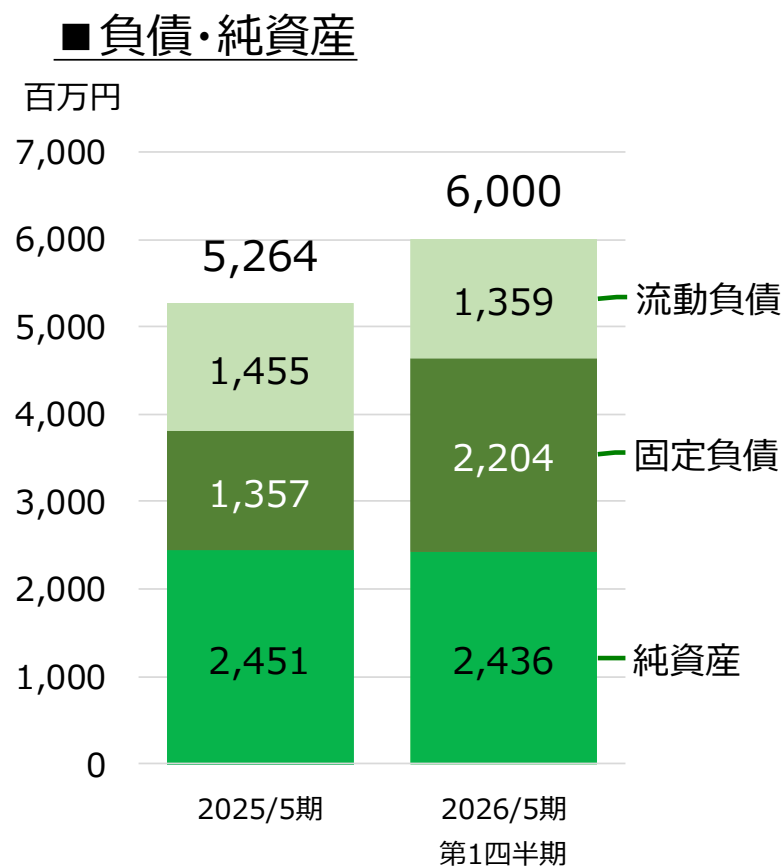
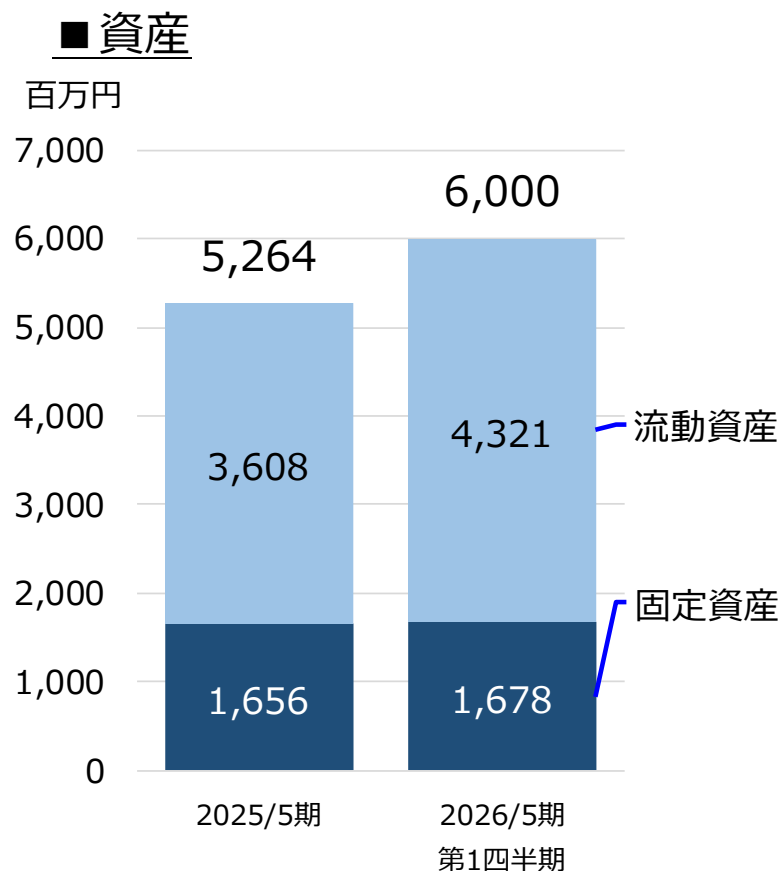
- 主力のイオン交換樹脂は、半導体向け市場の活性化や電力業界向け市場への進出を追い風に、自社加工品の売上が順調に推移
- 高機能イオン交換樹脂を推進力とした未開拓の業界への進出や、PFAS問題等の新たな課題を見据えて、営業・開発体制を拡充
- 顧客の抱える課題の聞き取りや当社の持つ技術をアピールするため、展示会出展や学会での講演・発表等を積極展開中

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



- 資金計画に基づく借入実施により現金・預金が増加
- 長期借入金の増加により固定負債が増加（長期借入金*：1,643百万円→2,482百万円）

* 1年内返済予定の長期借入金を含む



自己資本比率：40.6%（前期末比 ▲6.0pt）

- 健康食品事業・医薬品事業の売上見込を反映して、第2四半期および通期の業績予想を修正

健康食品事業 通期売上見込 : 600百万円 → 1,100百万円

医薬品事業 通期売上見込 : 3,400百万円 → 3,500百万円

2026年5月期
2Q

	従来予想	修正予想	修正額
売上高	3,300 百万円	3,500 百万円	+200
営業利益	70 百万円	180 百万円	+110
経常利益	45 百万円	170 百万円	+125
当期純利益	20 百万円	120 百万円	+100
配当金	10 円	10 円	-

2026年5月期
通期

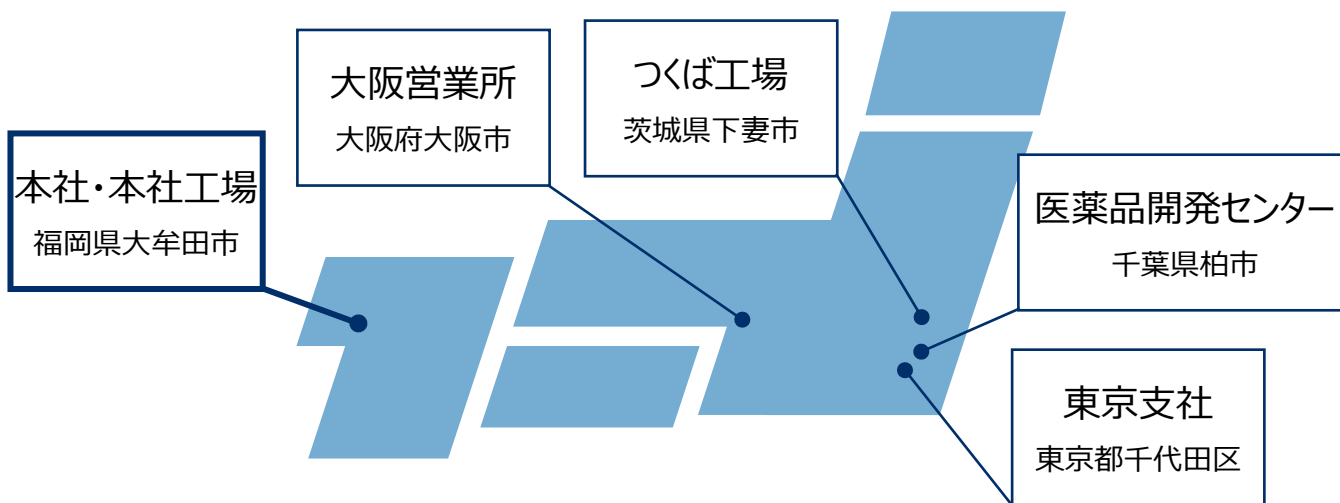
	従来予想	修正予想	修正額
売上高	6,500 百万円	7,100 百万円	+600
営業利益	200 百万円	360 百万円	+160
経常利益	160 百万円	330 百万円	+170
当期純利益	100 百万円	230 百万円	+130
配当金	25 円	25 円	-

参考資料



会 社 名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代 表 者	代表取締役社長 青木 淳一
設 立	1947年7月（創立：1917年1月）
資 本 金	143,172千円
従 業 員	203名（パート・臨時従業員を除く）2025年5月末現在

< 拠 点 >



創立当時（1917年頃）



大牟田市 本社工場

明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖 室町(上海)商貿有限公司を清算

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により
社会に貢献する経営を目指します。

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



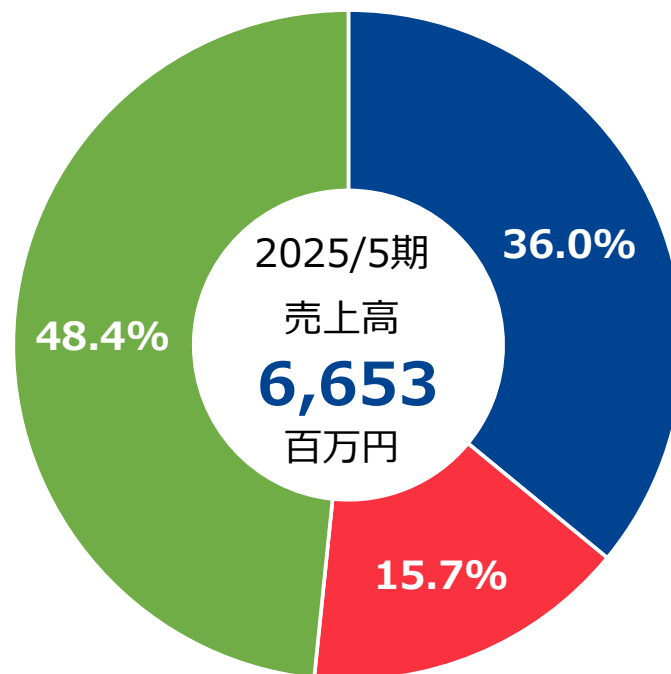
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造

※2026年5月期末 事業撤退完了予定



スティックゼリー



Tパウチゼリー

化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

健康・美容成分には食べづらい味や匂いのものもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

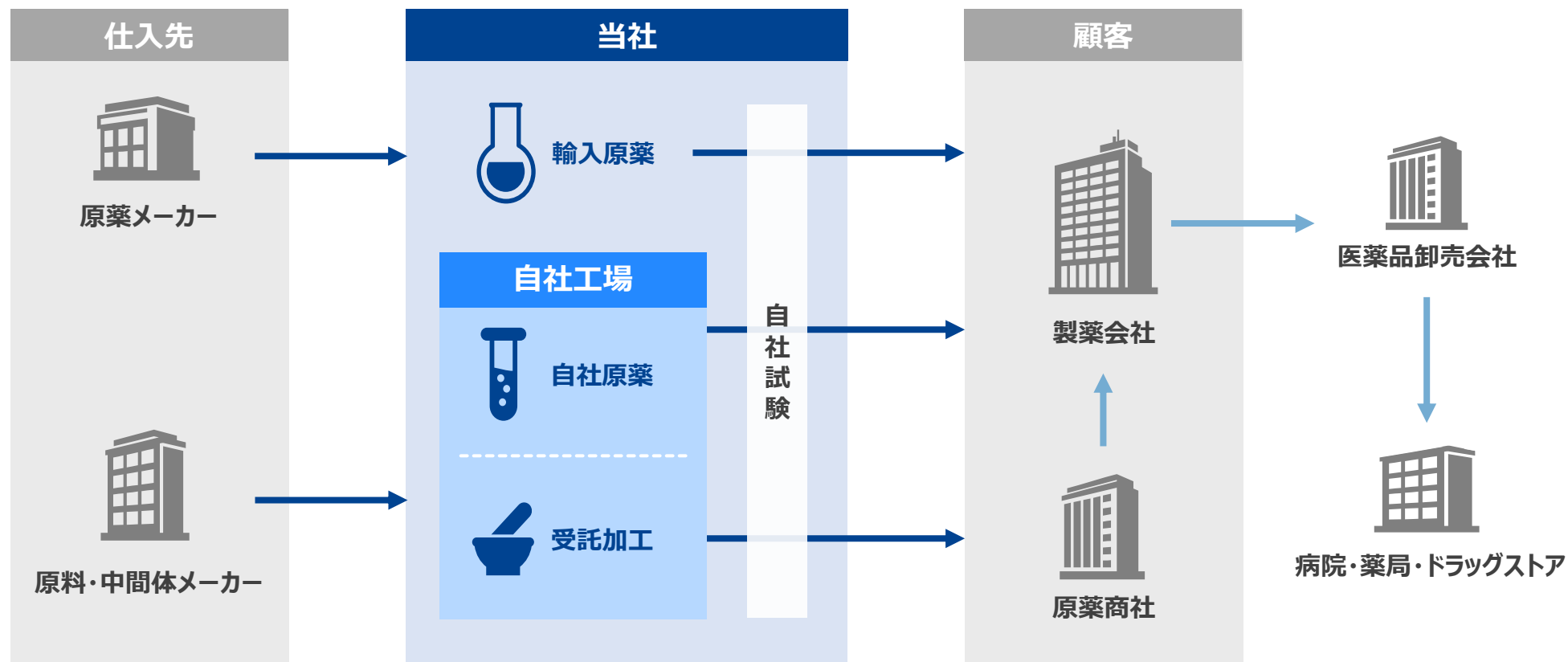
※2026年5月期末 事業撤退完了予定

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。
当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。
現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

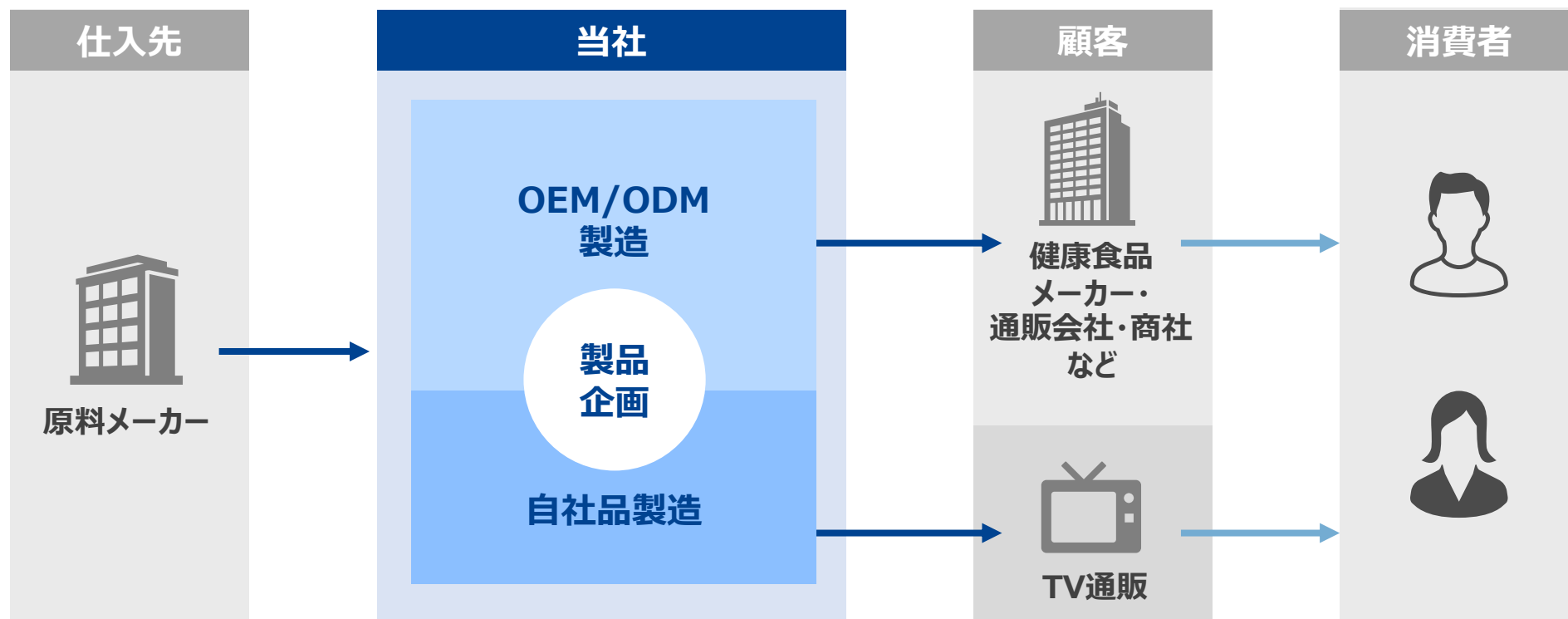
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



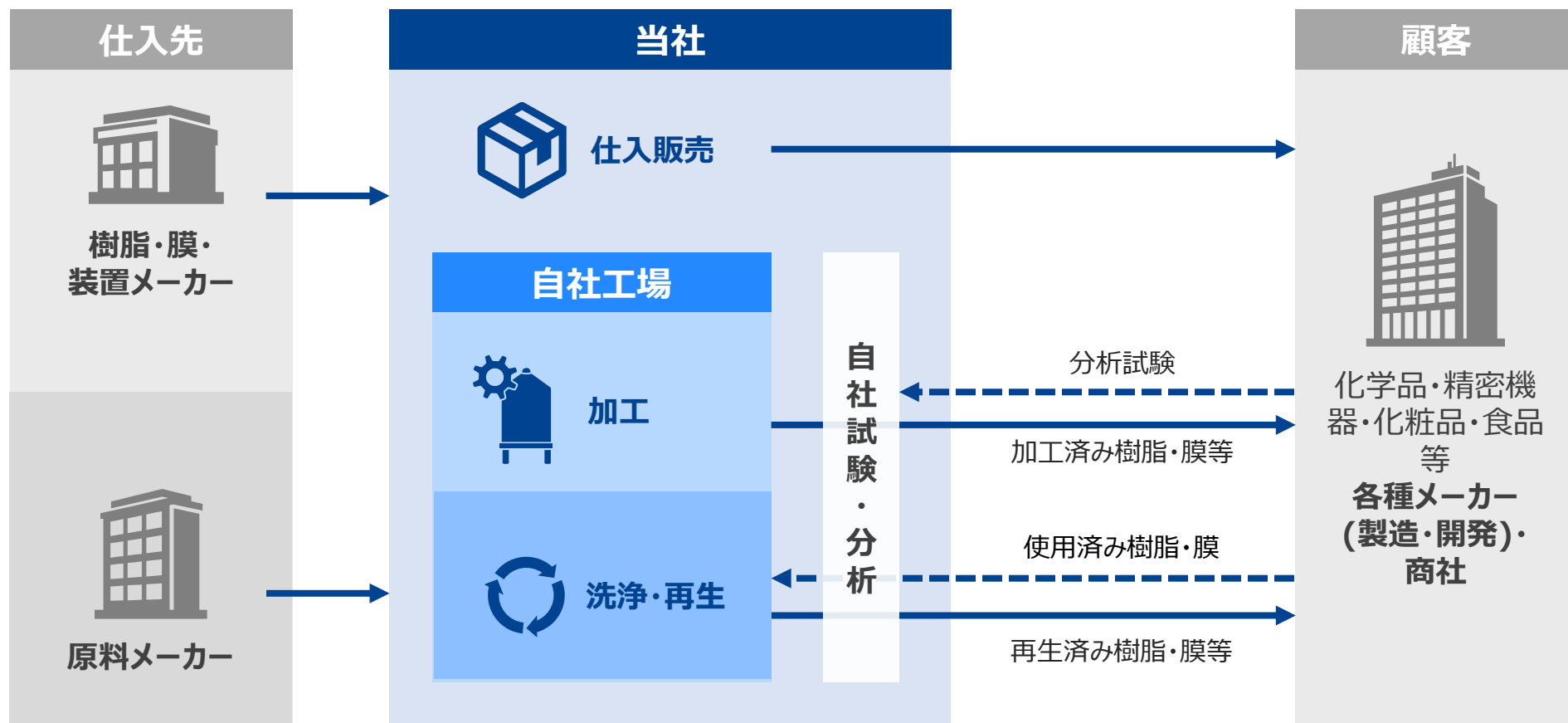
* ODM(Original Design Manufacturing)

・・・発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM（Original Equipment Manufacturing）に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。





＜本資料に関するお問い合わせ先＞
室町ケミカル株式会社 経営企画室
E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

＜本資料取扱上の注意点＞

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。